

2021（令和3）年度 倫理 シラバス

沖縄県立宜野湾高等学校 地理歴史・公民科

科目名	倫理	単位数	2	学年	1	1組、2組、3組、4組、5組、6組
使用教科書	「高等学校 改訂版 倫理」 (第一学習社)		副教材等	教科書準拠ノート 第一学習社		
授業形態	一斉授業					

学習の到達目標	青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる
---------	--

1. 評価の観点

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断	c. 資料活用の技能・表現	d. 知識・理解
人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するよう活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている

2. 評価方法

- (1) 定期テスト：学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- (2) 授業態度：授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的判断する。
- (3) 提出物：ノートやプリントへの板書事項、各自のノートまとめを確認し評価する。

3. 学習方法及び履修上の注意

- (1) 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- (2) 準拠ノートと資料プリントを使用する。
- (3) 授業は進度予定表に従って行い、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。

令和三年度 地理 B シラバス

沖縄県立宜野湾高等学校 地理歴史科

教科	科目	単位数	指導学年	必履修・選択
地理歴史	地理 B	4	2、3 学年	必履修

1. 教科の目標

現代社会の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2. 評価方法

- ① 定期テスト・・・学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ② 授業態度・・・授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的判断する。
- ③ ノート・・・板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
- ④ 提出物・・・授業の進度に応じ出した課題について提出させる。

3. 使用教科書・教材

教科書：帝国書院 標準高等地図 一地図でよむ現代社会－
帝国書院 新詳地理 B
副読本：帝国書院 図説地理資料 世界の諸地域 NOW 2021
帝国書院 新詳地理 B ノート

4. 授業の展開と形態

二年 1 組・2 組で日本史 B と地理 B の 2 クラス 2 展開で行う。
二年 3 組(文理特進コース) で日本史 B と地理 B の 2 展開で行う。
二年 5・6 組で日本史 B と地理 B の 2 クラス 2 展開で行う。
三年 4 組 (スポーツ健康コース) で日本史 B と地理 B の 2 展開で行う。

6. 学習方法及び履修上の注意

- ① 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- ② ノート (教科書準拠内容・白地図等) とプリントを使用する。
- ③ 授業は進度予定表に従って行き、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- ④ DVD や新聞などを適宜利用し、現代の社会の状況を感じさせながら学ばせる。

2020(令和3)年度 世界史B シラバス

宜野湾高校 地理歴史科

科目	世界史B	単位	4	学年	3	全クラス
使用教科書	帝国書院「新群世界史B」			副教材等	「新群世界史Bノート」	
授業形態	単独・一斉授業					

学習の到達目標	<p>① 自然環境と人類とのかかわりや、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活の中にみられる世界史を調べる活動を通して、世界史への興味関心を高め、世界史を学ぶ意義に気づきます。</p> <p>② 古代から現代にいたる世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地域世界の動向に焦点を当てながら学習し、地球世界の形勢という大きな時間的枠組みの中で理解します。</p> <p>③ 古代から現代にいたる世界の歴史を、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解します。</p> <p>④ 世界の歴史における文化・文明の多様性・複合性や現代世界の特質を、広い視野から考察することにより、歴史的思考力を培います。</p> <p>⑤ 主体的な学習活動を通して、現代の世界が抱える諸課題について探究し、国際社会に生きる日本国民としての自覚と資質を養います</p>
---------	---

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断	c. 資料活用の技能・表現	d. 知識・理解
<p>○世界の歴史を学ぶ意義に気づき、世界史に対する関心を高め、主体的に学習に取り組んでいるか。</p> <p>○世界が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく当事者としての自覚を持って考える態度を身につけているか。</p>	<p>○世界の歴史を、自然環境とのかかわりや地理的条件、日本の歴史と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。</p> <p>○世界の歴史を、時間的なつながりや空間的なつながりに着目して考察しているか。</p> <p>○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解、立場があることをふまえ、公正に判断しているか。</p> <p>○課題についての考察や判断の過程や結果を、効果的な方法を選択して適切に表現しているか。</p>	<p>○世界の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。</p> <p>○得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身につけているか。</p>	<p>○古代から現代にいたる世界の政治、経済、社会、文化、宗教、生活の各領域における歴史的事象を理解し、基本的な知識を身につけているか。</p> <p>○古代から現代にいたる世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史とも関連づけながら理解しているか。</p>

2、評価方法

- ①定期テスト・・・学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ②授業態度・・・授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的判断する。
- ③ノート・・・板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
- ④提出物・・・授業の進度に応じ出した課題について提出させる。

3、学習方法及び履修上の注意

- ① 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- ② プリント（教科書準拠内容・白地図等）と資料プリントを使用する。
- ③ 授業は進度予定表に従って行い、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- ④ V T Rや新聞などを適宜利用し、現代の社会の状況を感じさせながら学ばせる。

2021（令和3）年度 現代社会研究 シラバス

沖縄県立 宜野湾高等学校 地理歴史・公民科

科目名	現代社会研究 (学校設定科目)	単位数	2	学年	3	3組・5組・6組
使用教科書		副教材等	『現代社会資料集 2019』第一学習社 『ステップアップ現代社会』第一学習社			
授業形態	一斉授業					

学習の到達目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	--

1. 評価の観点

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断	c. 資料活用 of 技能・表現	d. 知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

2. 評価方法

- (1) 定期テスト：学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- (2) 授業態度：授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的判断する。
- (3) ノート：板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
- (4) 提出物：授業の進度に応じ出した課題について提出させる。

3. 学習方法及び履修上の注意

- (1) 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- (2) ノートを使用する。
- (3) 授業は進度予定表に従って行い、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- (4) **VTR** や新聞などの視聴覚教材を適宜利用し、現代の社会の状況を感じさせながら学ばせる。

2021(令和3)年度

沖縄の歴史 シラバス

宜野湾高等学校 地理歴史科

科目	沖縄の歴史	単位	2	学年	3	1, 2, 3, 4, 5, 6組の自由選択科目	
使用教科書	改訂版 書き込み教科書 高等学校 琉球・沖縄の歴史と文化			副教材等	なし		
授業の形態	一斉授業・校外学習			実習費	なし		

学習の到達目標	1 日本史・世界史に、沖縄歴史の視点を取り入れ、歴史の本質を見極める目をやしなう。		
	2 沖縄歴史の考えを取り入れることで、従来の歴史像とは違う歴史評価を加えることができる。		
3 先人の足跡を知ることで、沖縄人としてのアイデンティティの確立を図る。			
評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断	c. 資料活用 の技能 ・表現	d. 知識・理解
沖縄歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、現代社会に主体的に生きる県民・国民としての自覚をもつ。	沖縄歴史の展開から課題を見だし、我が国と沖縄を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	沖縄歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、その過程や結果を適切に表現する。	沖縄歴史の展開についての基本的な事柄を我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

1、学習のねらい

沖縄の将来を担う生徒に、琉球・沖縄の歴史と文化に興味・関心をもたせ、沖縄を取り巻く社会状況・自然環境などの課題を認識させるとともに、現代社会における主体的な自己の生き方と沖縄のあるべき姿について考えさせ、問題解決の方法を追求する。

2、評価方法

- ① 定期テスト・・・学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ② 授業態度・・・授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的判断する。
- ③ ノート・・・板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
- ④ 提出物・・・授業の進度に応じ出した課題について提出させる。

3、学習方法及び履修上の注意

- ① 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- ② プリント（教科書準拠内容・白地図等）と資料プリントを使用する。
- ③ 授業は進度予定表に従って行き、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- ④ VTRや新聞などを適宜利用し、現代の社会の状況を感じさせながら学ばせる。
- ⑤ 校外学習を取り入れ、体験的に学ぶ機会をつくる。

